

【開催レポート】1人を「16社」が奪い合う？建設業の人材不足解決の糸口は

パネルディスカッション「2030年の建設業をつくる人材戦略」にアンドプロ・箕輪真人が登壇



「アンドプロ」建設・不動産業界領域ブランディングマネージャー・箕輪真人

「建設技術展2026関東」において10月21日(水)に行われたパネルディスカッション、「2030年の建設業をつくる人材戦略～多様な人材が力を発揮できる建設業への変革～」(建設ディレクター協会主催)に、業界/職種に特化した転職エージェント「アンドプロ」を運営する株式会社クイック(本社:東京都港区、代表取締役会長:川口一郎)で建設・不動産業界領域のブランディングマネージャーを務める箕輪真人が登壇しました。

日刊建設工業新聞社の横川敦・常務取締役編集局長のファシリテートのもと、アンドプロの箕輪に加え、日本建設業連合会の山本悟司専務理事、建設ディレクター協会の新井恭子理事長の計3人が、建設業界が抱える深刻な人材不足の現状と多様な人材が活躍できる持続可能な環境づくりについて、それぞれの立場、視点から分析、提言を行いました。

ーパネルディスカッションの詳細なレポートはこちら

[8割が業界未経験、しかも引く手あまた。建設業の“超”人材不足を救う「建設ディレクター」とは？](#)

■ 求職者にとって「異次元の超売り手市場」。建設業界が陥る“ゼロサムゲーム”とは？

セッションの冒頭、箕輪は人材紹介業という立場で20年以上にわたって建設業界を担当してきた経験から、業界の採用課題について現状を報告。建設業界全体の有効求人倍率が約7倍、土木施工管理職に至っては約16倍という「異次元の超売り手市場」となっている状況を説明しました。



日本建設業連合会・山本専務理事(写真左)/日刊建設工業新聞・横川編集局長(写真右)

日建連の山本専務理事も、一時低迷していた建設投資が年76兆円規模とピーク時の84兆円近くまで急回復する一方で、就業者数は約3割減少し人手不足が深刻化していると指摘。さらに、現場責任者の半数以上を50代以上が占めるなか30～40代の中堅層が抜け落ちており、世代交代が危機に直面していると問題提起しました。

人手不足の背景として箕輪は、企業が経験者採用にこだわるあまり、業界内で経験者を奪い合って人材の総量が増えない「ゼロサムゲーム」に陥っていると補足。そして、この人手不足による労働環境の悪化と離職の悪循環を断ち切るためには、「(既存の人材を)減らさない」と「(新規入職を)増やす」の両輪をやり切る覚悟を持つことが何より肝要と述べました。



建設ディレクター協会・新井理事長(写真左)

■「減らさずに増やす」に貢献する、建設ディレクターの可能性

深刻な現状を踏まえ、新井理事長は人手不足解消の有効な手段として、建設ディレクターのあり方を紹介。施工管理技術者などが抱える書類作成などの事務業務を建設ディレクターが切り出して担い、技術者が現場のコア業務に専念できる環境を整えることで、離職の主な理由となっている長時間・過密労働の改善に貢献していることを強調しました。



現在までに全国で約4000人が建設ディレクターの資格を取得し、うち3000人が建設業未経験。箕輪は転職エージェントという立場から、建設ディレクターの導入が建設業界に未経験者という新たな層を呼び込む「増やす」効果と、施工管理者の労働環境を改善して人材を引き留める「減らさない」効果の両方に寄与していると加えました。

■ 持続可能な建設業を支える環境づくりへの4つの提言

人手不足の解消に向け、負のスパイラルを好循環に変えていくため、箕輪は採用企業側と転職希望者側それぞれの視点を踏まえ、持続可能な建設環境づくりに向けて以下の4点を提言しました。



- **変革を積極的に発信:** 建設ディレクターやシニア人材の導入などで労働環境を改善している企業は、その事実を外部へ積極的に発信することで、採用も強化され、業界自体の発展にも寄与できる。
- **採用ターゲットの拡大:** 経験者の奪い合いから脱却し、シニア人材、文系出身者、リスクリング前提の未経験者採用など、採用の間口を広げることが中長期的な事業成長につながる。
- **越境人材の活用:** 社会変化に柔軟に対応するため、異業界からの「越境人材」を登用することが、ポートフォリオの多角化や組織の柔軟性を育む。
- **建設業そのもののブランディング:** 建設業の「一品一様のモノづくり」の尊さや楽しさを、SNSなどで積極的に発信、ブランディング化していくことで、業界全体の人材確保に努める。

そのうえで、『減らさない』と『増やす』の両輪を愚直に回し続けることが、2030年への正しい道だと思う」と重ねました。



山本専務理事は深刻な技術者不足に対する有効な打開策として多様な人材活用を挙げ、業界全体で魅力ある産業を目指す姿勢を強調しました。新井理事長も個人の負担に頼る現場から、AI・デジタル化の推進も担いながら「組織・チームで支え合う体制」へ移行していくべきと指摘しました。

最後にはファシリテーターの横川編集局長が「発注者・受注者・制度が一体となって変わっていかなければならない」と指摘し、建設ディレクターが体现する「技術者・産業・社会の今と未来をつなぐ」方向性こそがこれからの建設業に求められていると総括しました。

<登壇者プロフィール>

箕輪真人: 転職エージェント「アンドプロ」、建設・不動産業界領域 ブランディングマネージャー。前職のリクルート含め、20年以上にわたり同業界を担当。転職・採用支援および企業ブランディングを担っている。

[プロフィールページ](#)

山本悟司: 一般社団法人日本建設業連合会(日建連) 専務理事。国土交通省(土木系技術職)に36年勤務。業界団体の立場に加え「発注者・行政」の知見を併せ持った提言を行っている。

新井恭子: 一般社団法人建設ディレクター協会理事長。約30年にわたり建設業のIT化支援に従事。技術者を後方支援する「建設ディレクター」を創出し、未経験者のリスキリングや普及活動を推進している。

■領域特化型エージェント「アンドプロ」について



<https://and-pro.jp/>

製造・IT・建設・製薬業界を中心に、30年以上にわたる人材紹介の実績を持つ株式会社クイック（東証プライム上場）が運営する【領域特化型の転職エージェント】です。

各業界/職種に精通した高い専門性を持つ専任コンサルタントが、企業と求職者双方の要望を深く理解し、一気通貫型でサポートいたします。各企業を知り尽くしたプロの視点で、あなたのスキルや人柄から「希望の企業に評価される強み」を見出し、最適なベストマッチへとナビゲートいたします。

建設業界の転職支援においては、各企業の採用ニーズを詳細に把握したうえで、豊富なスキルを持った経験者はもちろん、意欲的な異業界人材の紹介もご支援させていただきます。深い業界理解と長年の蓄積を踏まえ、業界全体の課題解決への寄与を掲げております。採用課題の解消に向けた求人票の改善や採用方針のブラッシュアップなども、ご相談を承ります。

■株式会社クイックについて

名称:株式会社クイック

代表者:代表取締役会長 川口一郎

所在地:〈東京本社〉東京都港区赤坂2-11-7 ATT EAST

〈大阪本社〉大阪府大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル

事業内容:人材サービス事業、リクルーティング事業、地域情報サービス事業、HRプラットフォーム事業、海外事業

本件に関するお問い合わせ先:information@and-pro.jp (「アンドプロ」問い合わせ窓口)

URL:<https://919.jp/>

クイックは「関わった人全てをハッピーに」を経営理念に掲げ、株主や投資家、取引先、求職者、各種メディアの読者の皆様、そしてクイックグループで一緒に働く従業員やその家族、さらには地域社会に至るまで、関わった全ての方々をハッピーにする企業を目指しています。